

(情報公開文書)

杏林大学医学部病理学教室では、杏林大学医学部倫理員会の承認を受け、以下の研究を行っています。

1. 研究課題:

T 細胞リンパ腫の診断における TRBC1 免疫組織化学の有用性の検証

2. 研究の目的:

T 細胞リンパ腫は、免疫細胞の一種である T 細胞が腫瘍化する病気で、全ての悪性リンパ腫のうちおよそ 1 割を占める比較的まれな疾患です。この病気は、症例によって細胞の形や性質が非常に多様であるため、診断が難しいことが少なくありません。特に、がん細胞と正常な T 細胞との区別が難しい場合があり、診断を確定するためには「腫瘍が単一の T 細胞の集まり(=クローニン性)」であることを証明することが重要になります。これまで、この「クローニン性の証明」には、DNA を使った遺伝子解析が使われてきました。しかし、これらの検査は時間や費用がかかるうえ、検体の状態に左右されやすいという課題があります。そこで本研究では、「TRBC1(ティーアールビーシーワン)」という T 細胞に特有のたんぱく質を免疫染色という方法で調べることで、腫瘍のクローニン性をより簡便かつ正確に評価できるかを検討します。この新しい方法は、形態(顕微鏡で見える細胞の形)を保ったまま解析できる点が特徴であり、従来の検査を補う有用な診断手段となることが期待されます。

3. 研究の方法:

杏林大学医学部付属病院で 2015 年 1 月から 2025 年 9 月までの間に診断された T 細胞リンパ腫、または T 細胞リンパ腫との鑑別が必要であった症例を対象とします。すでに診断のために採取され、検査を終えたあとに保管されている病理組織(ホルマリン固定パラフィン包埋検体)を使用します。新たに検体を採取することはありません。これらの検体を用いて、TRBC1 というたんぱく質を特異的に認識する抗体を使い、免疫染色を行います。その結果を、既に行われた病理診断や遺伝子検査の結果と比較し、TRBC1 染色がどの程度正確に T 細胞リンパ腫の診断を反映しているかを検討します。また、染色結果と顕微鏡で観察した形態的特徴(細胞の形や分布)との関係もあわせて解析し、診断の助けとなる指標を明らかにすることを目指します。

4. 研究期間:

西暦 2025 年 11 月 10 日～西暦 2030 年 3 月 31 日

5. 対象者及び研究に使用する試料・情報:

対象: 2015 年 1 月から 2025 年 9 月の期間に杏林大学医学部付属病院で T 細胞リンパ腫、

またはその鑑別が必要とされた症例

試料:診断目的に採取された腫瘍組織(病理検査を終えた後に保管されている検体)

情報:診療録中の年齢、性別、検査データ、治療法、転帰、併存・合併疾患の有無

6. プライバシーの保護:

本研究では研究対象者の個人情報を匿名化したうえで検討を行います。学術集会や学術雑誌において研究成果が発表される際にも、対象者が特定されることはありません。

7. 研究対象者となることをご了解頂けない場合:

本研究の対象者となることをご了解頂けない場合には下記にご連絡下さい。研究期間中には、いつでも対象者となることを拒否できます。拒否をされた場合でも、今後の治療等に影響はございません。ご家族からのお問い合わせにも対応させて頂きます。

8. 本研究についての問い合わせ先:

杏林大学医学部病理学教室 柴原 純二

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

TEL:0422-47-5511(内線 23420)

FAX:0422-40-7093